

様式7 業務実施方針

軽井沢の未来を共に学び、考え、語り合うことから、全てが始まります。

軽井沢グランドデザインには風土自治圏の考えが謳われています。軽井沢という日本が世界に誇るべき都市の重要な拠点施設として、多くの方々と共に考え、議論したことを確実に計画に落とし込んでいきます。100年後の未来へつなぐ、軽井沢の人々に愛される庁舎づくりを目指します。



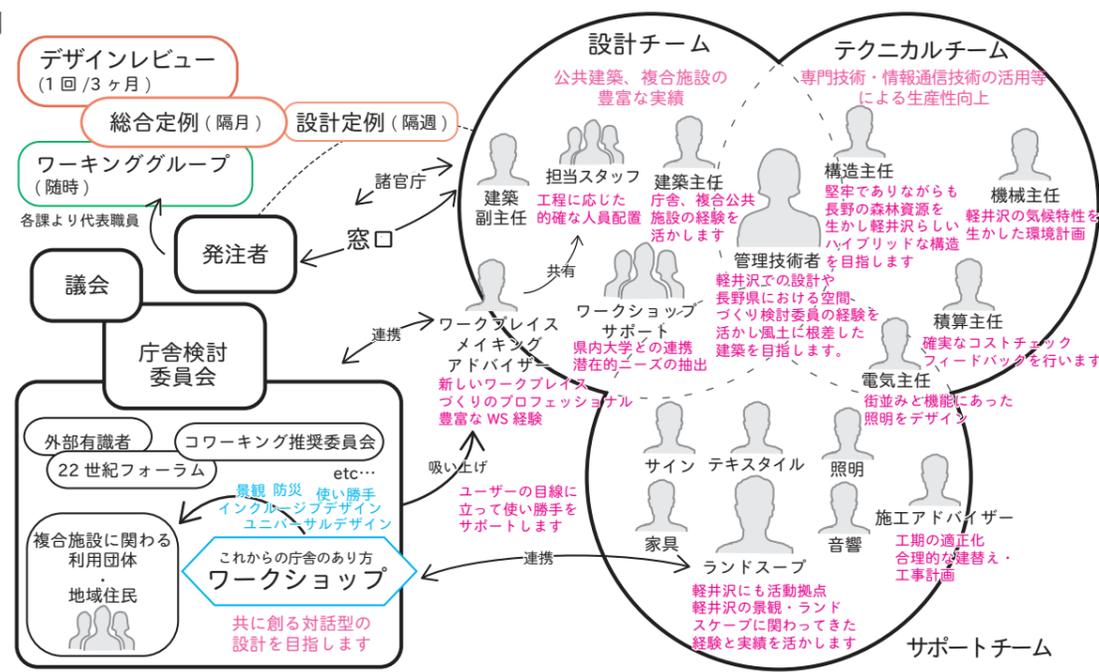
取組体制と設計チームの特徴—対話を重視した透明な設計プロセスで、みんなの思いを一つにまとめ上げます—

1 高い専門性と豊富な経験を活かし、課題に応じて柔軟に応答する設計体制

公共事業や複合施設など、豊富な経験と高い専門性を活かし、多様なニーズに対応した施設づくりを実践します。行事例の調査・共有を行い、場合によっては合同視察を実施し、早い段階でイメージの共有を図ります。将来を見据えた次世代型庁舎、地域の活動拠点を目指します。

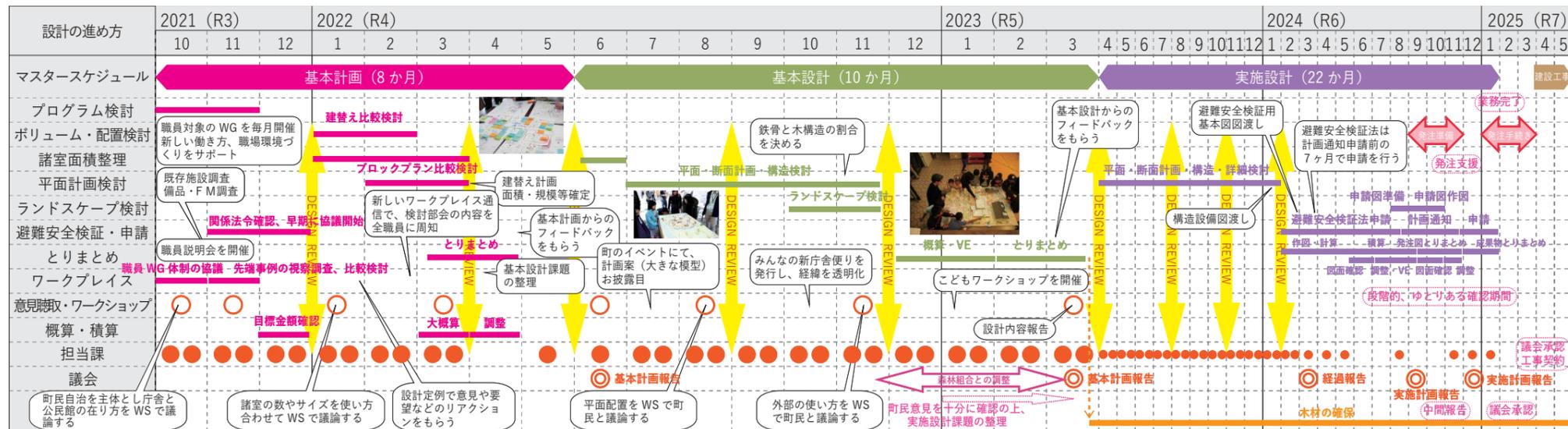
2 軽井沢ブランドを体現する町民の誇りとなり、永く愛される庁舎づくり

- 軽井沢グランドデザインや風土自治の考えに基づき、新しい自治、庁舎のあり方を追求します。
- 住民だけでなく、短中期滞在者など軽井沢を愛するすべての人にとってのニーズや地域資源を掘り起こします。
- 軽井沢の景観や植生に精通し、気候風土を熟知した設計チームで取り組めます。
- 構造部材から仕上げ材、家具まで、県産木材を積極的に活用し、森林のストックやウッドショックの状況を把握し、軽井沢らしい温かみのある木の空間をつくります。
- 木を最大限に利用できるよう避難安全検証法を適用します。
- 庁舎・複合施設づくりを通して、SDGs 推進、未来のまちづくりのシンボルとなることを目指します。
- 近隣住民への配慮や、現庁舎隣での工事においても居住性・安全性を確保し、低騒音・低振動の工事計画とします。



設計工程計画—町民、職員、議員、みんな一体となっていく—

設計で大事なものは、要望を確実に設計に落とし込み、適切な工事発注につなげることです。品質確保のため、基本設計中に先行して、概算見積り、申請機関との事前相談を行うなど、実施設計での後戻りを少なくする工程計画です。



3 次世代型庁舎のワークスペースづくり

新しいワークスペースづくりに精通し、公民関わらず様々な実践をおこなっている専門家を配置します。ハードだけでなく、新しいサービスのあり方、システム構築などのソフト面でも、要望に応じたチーム体制を組織することが可能です。

4 誰もが参加できるテーマ型ワークショップ

設えから使われ方、メンテナンス、更新性まで統合的に理解し、計画できるチームです。誰もが参加しやすいテーマのワークショップとワーキンググループにより、ユニバーサル・インクルーシブデザインを実現し、みんなで軽井沢の未来を考えていきます。

5 誰にとってもわかりやすい情報共有

ワークショップなどの内容は、新聞やフリーペーパー、SNSなど、だれもが気軽に新庁舎の情報に触れられるようにします。大きな模型やCG等を用いて、誰もが体感的に理解しやすい方法で空間のイメージを共有します。

6 着実に実行するプロジェクトマネジメント

建築副主任技術者を配置し、様々な課題に迅速に対応します。的確な人員配置、先行課題整理・先行検討により手戻り防止。長期、中期、短期毎のスケジュールと達成目標を立案、共有を行う。要望リストを作成し、発注者、対応者、対応期限、対応の可否などを一元管理する。初期段階で重要項目、重要度を整理しクリティカルポイントを設定。ワンデーレスポンスとし、当日に対応可能日、検討方針を明確化

7 川上型コストマネジメント

初期段階からコストチェックを行い、各段階での目標を達成してから着実に次のステップに進むようチェックとフィードバックを繰り返し行います。

